

# 緩和ケアに関する患者さん情報の 研究利用についてのお知らせ

このたび、国立病院機構東京医療センター臨床研究センター人工臓器・機器開発研究部と、緩和ケアチームでは「コロナ禍における面会制限と、終末期医療の痛みのコントロールの変化」について研究を行います。

この研究はCOVID-19による患者家族の面会制限による麻薬性鎮痛薬（塩酸モルヒネ、オプソ内服液、モルヒネ塩酸塩錠、アンパック坐薬、オキノーム散、アブストラル、ナルラピド、オキシコドン徐放錠、MS ツワイスロン、フェントステープなど）の使用量の変化を、面会制限前と比較して、スピリチュアルペイン（心理的な痛み等）への面会制限の影響を客観的に評価することを目的としています。2018年4月1日から2021年3月31日までに、当院緩和ケアチームが治療にたずさわった患者さんの診療情報の調査です。

対象となる患者さんは、上記期間に当院に入院され、痛みに対して緩和ケアチームが治療にたずさわった患者さんのみです。

調査の内容は、個人情報を含まない医療情報（痛み止めのお薬の量、など）のみです。

患者さんの個人情報は外部に漏れることは一切ございませんのでご安心ください。匿名化された調査内容は、研究責任者のもとで施錠保管し厳重に管理されます。

今回得られた調査結果は個人の特定はできないまま、医学論文、学会等で発表され、内外に報告します。

ご自身、ご家族のデータを研究に利用されることを承諾されない方や、この研究に関しましてご質問がございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。その場合、今後も診療に何ら不利な扱いを受けることはございません。

2021年（令和3年） 10月

## 研究責任者

国立病院機構東京医療センター  
臨床研究センター 人工臓器・機器開発研究部長 角田 晃一  
連絡先 03-3411-0111（代表）